

農業共済新聞 千葉版

掲載号	7 月 4 週号	
筆者	所属	農林総合研究センター
	職名及び氏名	主幹 山本 二美
題名	サツマイモ 育苗ハウスの太陽熱消毒	
備考	【図1】 つる割病・立枯病の発生ハウスにおける太陽熱消毒の防除効果	

【本文】

サツマイモ産地では、ウイルスフリー苗の利用が増えています。ウイルスフリー苗を用いた育苗は、購入したポット苗をハウスなどに親株として移植し、伸びた側枝を切り取り、順次、移植して親株として増殖する方法です。従来の種いも利用の育苗に比べて、育苗期間が長く、育苗開始時の1月～2月には保温や加温ができるハウスを利用します。

最近、連年使用の育苗ハウスで、つる割病や立枯病の被害がみられます。いずれも土壌病害で、病気が進行すると苗が枯死します。また、つる割病は発病した苗からも伝染することから、育苗時に感染すると被害が甚大です。

これら病害の防除には、クロルピクリン剤による土壌消毒が有効ですが、作業員への安全性や周辺環境への影響が問題です。つる割病菌や立枯病菌の死滅温度は55℃とされていることから、夏季の太陽熱消毒による防除効果を調査しました。

太陽熱消毒の処理前後の土壌を用いて、感受性品種による検定試験を行ったところ、つる割病や立枯病に対する防除効果が認められました(図1)。また、太陽熱消毒を行った育苗ハウスでは翌年の発病はみられませんでした。

太陽熱消毒の方法は、①苗の残渣をハウス外に持ち出し、②ハウス内の土壌に十分かん水した後、③透明ポリフィルムなどで地表を全面被覆し、④ハウスを密閉します。処理期間は、7月～8月の1か月間が目安です。

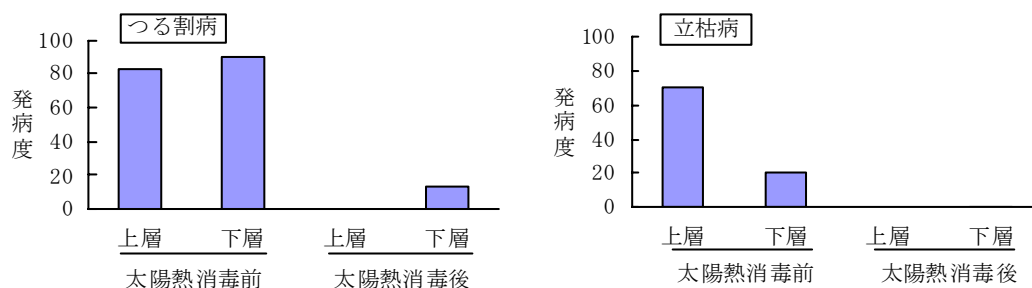


図1 つる割病・立枯病の発生ハウスにおける太陽熱消毒の防除効果

注1) 感受性品種を用いた簡易検定法による

注2) 上層は深さ0～15cm、下層は同15～30cmの土壌を用いた